

第2回木曾川上流自然再生検討会 議事要旨

日 時：平成21年2月24日（火）9:30～12:00
場 所：グランパレホテル 4階 櫓の間

1. 開会

2. 挨拶（木曾川上流河川事務所副所長、座長）

3. 議事

(1) 議事録の確認等

- ①第1回検討会議事要旨について、事務局より、委員了解の後、HPで公開したとの報告があった。
- ②第1回検討会議事録について、確認・了解した。

(2) 本日の説明事項

- ①河道、樹林化等の変遷と現状
- ②環境類型区分
- ③個別の箇所の変遷と現状
- ④樹木伐開について
- ⑤その他説明事項

上記5点の説明を受け、質疑を行った。主な意見や指摘は次のようである。

○河道、樹林化等の変遷と現状

- ・ 水際の人工化という点については、他の河川と比較しておくとの視点も必要ではないか。例えば都市に近い区間とそうでない区間では大きく異なるのではないか。
- ・ 自然的な攪乱だけでなく、河畔林利用などの人為圧の減少も非常に大きな要素だと考えられる。
- ・ 木曾川のデータでは、近年は下げ止まり、滞筋は固定化している傾向があると考ええる。
- ・ 出水後に水面が後退しているように感じている。河床が安定しているのか、下がっていく傾向なのか、今後の動向をしっかりと把握することが重要である。
- ・ 河床低下は平均河床高より、最深河床高が下がっているのではないか。ドラスティックな変化ではなく、(それによる)数10cmというオーダーでの(水位の)変化が、たまりの冠水頻度には効いてきている。
- ・ 200m間隔の横断測量によるスケールでは、河床低下の変化がとらまえにくくなっているように思う。3Dレーザー測量等新しい技術による変化の見方もある。
- ・ 河床低下よりも、水量の変化の方が大きいのではないか。流域平均雨量や流況曲線のデータ等、流域の特性を示し確認が必要。
- ・ 河床低下により水位の低下が起こっているだけではなく、流量低下も関係しているのではないか。水循環の観点も踏まえ整理していただきたい。

○砂礫河原の減少、樹林化の進行について

- ・ 木曾川のインパクト・レスポンスにおいて、ワンド等水際湿地の悪化・減少のレスポンスには、樹林化から生じる落葉の供給により有機物が堆積し、DOが減少していることも追加していただきたい。
- ・ 河川域の樹林地区分は「群集(アソシエーション)」として固定したものなのか、「群落」であるのか。また、群落の遷移はあるのか。群落の環境(冠水があるか等)についても調べておいたほうがよい。

○トンボ池について

- ・ S50年代からトンボは減ってきている。トンボ池に棲んでいたトンボは環境変動に脆弱な性質をもち、その減少には、地下水や周辺の植生など、様々な環境が変わっているため、原因を探ることが肝要である。

○ ○○○地区について

- ・ この地区のワンドは、基本的に湛水域から水が供給されているのではないかと考えられる。また、伏流水の供給もあると考えられ、その動態を明らかにすることが重要。
- ・ 木曾川大堰の運用に期待している。堰は流況、環境に氾濫原環境を維持するという意味で、良い影響を与えている印象である。木曾川大堰による影響があると想定されるため、現行の運用状況等についても示していただきたい。
- ・ 水温や泥の堆積等、重要な調査を実施していただいている。ワンド環境が1つの大きい目玉と考える。

○樹木伐開について

- ・ 盤下げを行い、湿地にすることは賛成である。盤下げは良い考えだが、効果をどのようにモニタリングするのか。また、盤下げの方法について、微地形をつくるなど色々な下げ方があるので考えていただきたい。
- ・ 河川管理上、樹木の伐開はやむを得ないが、モニタリング(事前事後)はぜひ必要である。
- ・ 治水上差し支えない範囲で、樹木地の機能が発揮されることが重要である。
- ・ 不法投棄や防犯のためにも、住民協働が必要ではないか

4. 閉会